

アクセント変化から見た琉球方言の系統樹と日本祖語音調から見た琉球祖語音調

ローレンス・ウェイン

オークランド大学

(wp.lawrence@auckland.ac.nz)

前半：アクセント変化から見た琉球方言の系統樹

徳川 (1962) 流の系譜の立て方は琉球語には向。本土日本語の場合、類の統合の結果、17 種以上の類の組み合わせがある (例えば 15/23/4, 14/23/5, 1/235/4, 14/235, 135/2/4,...)。一方では、琉球語の場合は A/B/C の三系列から始まり、考えられる組み合わせは AB/C, A/BC, AC/B のたった 3 種のみである。こんなに少ないために複数の方言に同じ組み合わせがあったとしても、偶然の一致ではないとはいえなくなる。

でも、不規則的な音韻変化は利用できるはず

○ 文節音を使った例：「田虫 (体部白癬)」

喜界島 k'ussjabaa (塩道), k'ussaφaa (阿伝), k'ussabaa (中里, 坂嶺, 城久)...

徳之島 kussaba (尾母), kussama (井之川), k'ussjama (馬根, 阿三), k'ussjami (伊仙)...

沖永良部 k'ussjaba (田皆, 瀬利覚, 皆川), 与論 kusjaba (麦屋東)

沖縄中南部 gucjaφa (西原, 那覇), gucipa (久高), guceeha (久米島真謝),

gucjaha ~ gucjaφa (久米島儀間)...

沖縄北部 gicjaapa (今帰仁), gicjaφa (伊是名, 喜如嘉, 谷茶), gicjoha (金武)...

*kussjaba > *kussjabaa (喜界島)

> *kussjama (徳之島の一部)

> *kucjaba > *gucjapa (沖縄) > *gicjapa (沖縄北部)

○ アクセントを使った例：

北琉球 vs. 南琉球

- ・「梔」 *makari 北 B (和泊・与論・今帰仁・金武) 南 C (池間・多良間・与那国)
- ・「燠」 *okiri 北 C (皆川・与論・田嘉里・今帰仁・首里^{BC})
南 A (多良間・鳩間・石垣・竹富)
- ・「種」 *sane 北 B > A (西古見・湯湾・田嘉里・今帰仁・金武・真謝・首里...)
南 B (鳩間^{BC}・石垣^{BC}・竹富^{BC})
- ・「判」 *pan 北 B?C? (西古見^{BC}・今帰仁^C・那覇^B)
南 B?C? > A (多良間・鳩間・石垣・竹富)
- ・「一周年」 *tanka 沖 B (伊江島・首里^{BC}) 南 A (多良間・鳩間・石垣・竹富)

奄美 vs. その他

- 「溝」 *mizo A > C (芦花部・西古見^{BC}・浅間・正名・与論)
- 「鱧」 *puka A > C (浅間・与論) cf. A (首里・石垣)
- 「諸」 *moro A > C (芦花部・諸鈍・浅間・皆川・与論)
cf. A (今帰仁・首里・石垣・与那国)
- 「心配」 *sjuwa A > B (西古見^{BC}・浅間・皆川・与論)
cf. A (今帰仁・首里・多良間・石垣・与那国)
- 「線」 *sen C > A (浅間・与論) cf. C (今帰仁・多良間・石垣^{BC}・与那国)
- 「棕櫚」 *tugu 奄 A (西古見・皆川・与論) 沖 B (田嘉里・今帰仁・首里^{BC})

沖縄 vs. その他

- 「ほら貝」 *bora C > A (今帰仁・金武・首里・那覇)
cf. C (浅間・正名・与論・多良間・石垣^{BC})
- 「今」 *inama? C > A (今帰仁・首里・渡名喜)
cf. C (喜界・正名・与論・池間・石垣^{BC}・与那国)

八重山 vs. その他

- 「昨日」 *kinou C > A (石垣・竹富・古見・与那国 but 鳩間^{BC})
cf. C (芦花部・正名・与論・金武・多良間)

中核八重山 vs. その他

- 「山羊」 *pibiza C > A (鳩間・石垣・竹富・古見)
cf. C (浅間・首里^{BC}・多良間・白保・与那国)
- 「車輪梅」 *tekati C > A (石垣・竹富・古見)
cf. C (浅間・与論・今帰仁・与那国)
- 「冬瓜」 *suburi B > A (鳩間・石垣・白保 but 竹富^{BC})
cf. B (湯湾・和泊・与論・今帰仁・多良間・与那国)

後半：日本祖語音調から見た琉球祖語音調

北琉球祖語 (ローレンス案)

- A 系列 語頭二拍高い
- B 系列 語末拍高い
- C 系列 語末二拍高い

(ローレンス 2009, Lawrence 2016)

日本本土祖語 (上野案)

- 高高中...
- 全低
- 低高...

(上野 2006)

北琉球方言で上記祖語の音調に近いもの

- A: HHL... — 徳之島浅間, 伊是名, 名護市久志, 久米島真謝, 首里
H...H か M...M — 徳之島亀津, 大宜味村田嘉里, 金武, 那覇市垣花
- B: ...LH — 与論島麦屋東, 大宜味村田嘉里
- C: ...LHH — 与論島麦屋東, 大宜味村田嘉里
...LHL — 徳之島亀津, 国頭村浜, 伊江島, 那覇市垣花

(南)琉球祖語 (松森 2016, 2017)

- A 低低高
- B 低高低
- C 高低低

北琉球祖語 (松森 2017)

- A 高低高 > 高高高
> 高低低 > 高高低
- B 低低高
- C 低高低

多良間方言

- a 型 — 無核
- b 型 — 二つ目の韻律語の末尾拍に低核
- c 型 — 一つ目の韻律語の末尾拍に低核

多良間方言の b 型音調

- その語から始まる文節内部に存在する 2 つ目の韻律領域に H 音調が出現する。H 音調は韻律領域の次末モーラに結びついて実現する。(松森 2014)
- 当該文節の左から 2 つ目の韻律語 (なければ 1 つ目) にアクセント核を付与する。アクセント核は該当の韻律語の次末モーラに付与される。(青井 2016: 24, 86)
- 主韻律語の隣の副韻律語の末位に低核をもつ。(新田 2019)
- 二番目の韻律語の末尾拍に低核がある。(渡久山・セリック 2020)

多良間方言の音調型の例 (以下、ハイフンは形態素境界を表す)

- a 型 kuusju-baru-mai 「唐辛子畑も」
 - b 型 mugɪ-ba¹ru-mai 「麦畑も」
 - c 型 tama¹na-baru-mai 「キャベツ畑も」
- (以上 松森 2014)

しかし、次の b 型の例の核は二番目の韻律語にあるか

- a 型 taukaa-midum-vva-mai 「一人娘も」
- b 型 idassu-midum-v¹va-mai 「兄弟の一番上の女の子も」
- c 型 utu¹ga-midum-vva-mai 「末の娘も」

(以上 渡久山・セリック 2020)

多良間方言の b 型音調

- cjaa-fukasɪ-bu¹ra-mai 「茶沸かし用のほら貝も」
- butu-muci-zɪbu¹n-mai 「結婚適齢期も」
- ɪzu-jaki-damu¹nu-mai 「魚を焼くための薪も」
- mii-pɪki-mu¹nu-mai 「穴の開いたものも」
- usɪ-kum-da¹na-mai 「押し込み棚 (引き出しのある棚) も」
- upu-tee-mu¹nu-mai 「力持ちも」
- kata-futa-a¹mi-mai 「片降り雨も」
- siki-dumi-fusju¹r-mai 「咳止め薬も」
- sɪm-narai-da¹u-mai 「学習用具も」
- naga-nuci-mu¹nu-mai 「長寿者も」

しかし

- kunku¹ri-jaa-mai 「コンクリート造りの家」 (cf. kunku¹ri-mai – 核は 2 つ目の韻律語に?)
- upu-nu¹nu-zjaunuu-mai 「上布の人頭税も」
- sjaumi¹n-zɪru-mai 「素麺汁も」
- sjaumi¹n-butturu-mai 「茹でた素麺を油 で炒めたものも」
- upu-gee¹m-mucɪ-mai 「唐黍の餅も」
- adana¹sɪ-auda, adana¹sɪ-sjaba, adana¹sɪ-nna 「あだんの繊維で作られた畚・草履・縄」
- mugɪ-gu¹ru-boosi-mai 「麦藁帽子も」

これは鳩間方言 (八重山) の B/C 系列音調 (複合語) にみられる状況に近い。複合名詞のうち、前部成素が素材 (など) を表すものは、その前部成素の音調が活かされる。(ローレンス 1997)

[鳩間方言の例]

無標

sima-dai ¹ kuni ‘島大根’ (dai ¹ kuni)	pusu-hun ¹ kiru ‘一区画’ (hun ¹ kiru)
ssu-kama ¹ buku ‘白蒲鉾’ (kamabuku)	itanda-pata ¹ raki ‘ただ働き’ (pataraki)
ffu-irabu ¹ ci ‘ぶだいの仲間’ (irabu ¹ ci)	ubu-aida ¹ ci ‘大木槌’ (aida ¹ ci)
ubu ¹ -nabi ‘大きい鍋’	ubu ¹ -kuci ‘大きい口’ ubu ¹ -hutai ‘大きい額’

特別

¹ basa-kin ‘芭蕉糸の着物’	¹ buu-kin ‘麻衣’	taa ¹ -kisi-kin ‘田んぼ用着物’...
(cf. 無標の kuusi ¹ -kin ‘継ぎ当てした着物’ taa-kaisi ¹ -kin ‘田耕し着物’...)		
kon ¹ kuri-jaa ‘コンクリート造りの家’	¹ gumu-saba ‘ゴム草履’	
¹ semen-gaara ‘セメント製の瓦’	adana ¹ si-zina ‘あだんの繊維の縄’	
adan ¹ -paa-musu, adan ¹ -paa-saba, adan ¹ -paa-zoori ‘あだんの葉筵・草履’		

後半の結論

現代の多良間方言の b 型単語は語末拍に低音調が付与され、その直前（環境によっては直後）に高音調が付与される。ある種の複合語（特に前部成素が素材のもの）のばあいには低音調は前部成素の末尾拍に付与される。

歴史的には、語末拍（あるいは前部成素の末尾拍）に高音調は付与されていたと思われる（これは北琉球祖語の B 系列音調と同じ）。ある時期に、この末尾拍の高音調は許容されなくなり、一拍前（あるいは環境によっては、後ろ）に移動したとする。

このように考えれば、宮古祖語と南琉球祖語の B 系列音調が ...LH (あるいは全低か) であった可能性は検討に値すると思われる。

参考文献

- 青井隼人 2016. 『南琉球宮古語多良間方言の音声学的・音韻論的構造の諸相』 東京外国語大学博士論文. [<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/88022>]
- 上野善道 2006. 「日本語アクセントの再建」 『言語研究』 130: 1-42.
- 徳川宗賢 1962. 「„日本諸方言アクセントの系譜”試論」 『国語国文学会誌』 6: 1-19.
- 渡久山春英、セリック・ケナン 2020. 『南琉球宮古語多良間方言辞典』 東京：国立国語研究所. [https://www.researchgate.net/publication/344499612_nanliuqiugongguyuduoliangjianfangyancidian_A_dictionary_of_Southern_Ryukyuan_Miyako_Tarama_dialect]
- 新田哲夫 2019. 「南琉球多良間方言のアクセントの弁別特徴と名詞句のアクセント」 日本語学会第 159 回大会発表 P-4.
- 松森晶子 2014. 「多良間島のアクセント規則を再検討する」 『日本女子大学紀要 文学部』 63: 13-36.
- 松森晶子 2016. 「声調言語としての宮古祖語」 田窪行則、ジョン・ホイットマン・平子達也 (編) 『琉球諸語と古代日本語』 145-165. 東京：くろしお出版.
- 松森晶子 2017. 「北琉球における C 系列 2 音節名詞の語頭音節の長音化」 『日本語の研究』 13:1. 1-17.
- ローレンス・ウエイン 1997. 「鳩間方言のアクセント — 名詞」 『沖縄文化』 85: 1-26.
- ローレンス・ウエイン 2009. 「北琉球祖語の名詞音調 — 試論」 『沖縄文化』 106: 1-17.
- Lawrence, Wayne P. 2016. “Historical reanalysis in the Nakijin dialect noun accentuation system,” *Cahiers de linguistique asie orientale* 45:1. 1-25.